

13 も も

(1) 生産目標

品種・系統	10a当たり収量	精果率	階級割合	糖度
中晩生種	2,500kg	80%	L級 80%以上	14度以上

(2) 経営指標及び労働時間(中生種)

経営指標(10a 当たり)

項目	金額
①出荷量(kg)	2,000
②販売単価(円) ※	524
③粗収益(円)	1,048,000
④経営費(円)	560,599
⑤農業所得(円)	487,401

※H22-R1のあかつきの販売単価

ア 販売価格の推移

(単位: kg あたり円)

年次	あかつき	白鳳	川中島白桃
H22	441	402	530
23	376	454	318
24	390	388	444
25	537	534	501
26	461	373	595
27	443	466	888
28	560	449	871
29	550	414	722
30	687	498	876
R1	790	547	810

(H30 まで: 全農山口扱い、R1: J A 山口県扱い)

イ 経営費の内訳

(単位: 円)

費用	金額	備考
肥料費	64,935	販売費用内訳 ・選果経費46,000 ・包装資材費100,000 ・運賃20,000 ・手数料(11%)115,280
農業薬剤費	26,333	
光熱動力費	1,968	
諸材料・小農具費	6,909	
修理費	23,866	
雇用労賃	34,840	
償却費	114,553	
販売費用	281,280	
管理費用	5,915	
合計	560,599	

ウ 投下労働時間（10a 当たり時間）

(ア) 月別労働時間

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
20.0	10.0	22.8	6.8	41.2	8.8	72.4	1.0	1.4	2.0	21.4	12.0	219.8

(イ) 作業別労働時間

整枝 せん定	施肥	土壌 管理	摘蕾	摘果	新梢 管理	防除	収穫 出荷	その他	合計
40.0	1.2	21.0	20.0	32.0	15.6	5.2	71.0	13.8	219.8

(3) もも重点推進事項

事 項	推 進 内 容
<p>1 品種更新対策</p> <p>2 改植の方法</p>	<p>1 早生種は梅雨期の天候により品質が大きく左右されるので中生～晩生種への更新の取りくみを行い、生産の安定を図る。</p> <p>ももの経済樹令は15年位と短く、老木になると収量、果実品質が低下してくるため計画的な改植を行う。連作障害対策として以下の点に注意する。</p> <p>1 伐採・伐根</p> <p>(1) 収穫後はできるだけ速やかに樹の伐採、枝の整理を行う。</p> <p>(2) 伐根は、大型機械により行い、できるだけ根は残さないよう取り除く。</p> <p>2 深耕</p> <p>バックホー、プラウ、深耕ロータリーなどで50～60cmの深さに深耕、反転を行う。この際、残根があれば取り除く。</p> <p>3 休閑又は客土</p> <p>(1) 計画的に2～3年間は、青刈作物(ソルゴー、青刈ライムギ等)を栽培し、適期にすき込む。</p> <p>(2) 休閑できない場合は、客土を行うが、50cm以上の土量が必要である。</p> <p>4 土壌センチュウ対策</p> <p>(1) 改植園地に寄生センチュウが多く検出された場合は、植え穴の土壌消毒を行う。</p> <p>(2) 新・改植の場合は、おはつもも等、センチュウ抵抗性台木を使用する。</p> <p>5 土づくり</p> <p>(1) 植付前に完熟堆肥2t/10aを施用する。</p> <p>(2) 植付後は、地力、樹勢により加減するが、完熟堆肥を毎年2t/10a程度施用する。</p> <p>6 排水対策</p> <p>排水不良園では、明きよ、暗きよを設け、さらに土盛りをして高畦方式とする。</p> <p>7 植付</p> <p>(1) 深植えとならないようにする。</p> <p>(2) 植え穴の土壌改良は充分に行い、以前の植穴は極力さける。</p>
<p>3 樹勢の維持強化</p>	<p>1 土づくり</p> <p>(1) 若木のうちから計画的に樹勢強化に努める。</p> <p>(2) 樹勢を見ながら完熟堆肥を投入する。</p> <p>(3) 深耕については、断根を少なくするためバックホーによる部分深耕、あるいはタコつぼ方式が良いが排水不良園では暗きよとの併用か、樹間の中央部での溝状深耕を行う。</p> <p>2 排水</p> <p>排水不良園では、明きよ、暗きよにより排水を良くし、根を健全に保つ。</p>

事 項	推 進 内 容
4 病虫害対策	<p>3 せん定</p> <p>(1) 樹勢の強い樹は間引きせん定を中心とし、樹勢の弱い樹では切り返しせん定を中心として樹の若がえりを図る。</p> <p>(2) せん定量は60～70%とし、徒長枝の有効利用を図る。</p> <p>4 日焼け防止</p> <p>(1) 枝幹に直射日光が当たらないように整枝法やせん定法を工夫したり、白塗剤を塗って受熱を少なくする。</p> <p>(2) 乾燥ぎみのやせ土地では被害が多いので敷き草、かん水により地温の上昇を防ぐ。</p>
	<p>1 せん孔細菌病</p> <p>(1) 枝病斑は見つけしだい早期にせん除し、病原細菌密度を下げる。</p> <p>(2) 防風垣や防風ネットを設け、風当りを少なくする。</p> <p>(3) 多発園ではストレプトマイシン剤を5月中旬まで2回散布する。また、萌芽直前の銅剤により初期発生の予防、収穫直後のボルドー液により病原細菌の越冬密度を下げる。</p> <p>2 灰星病</p> <p>(1) 被害果の早期処理と被害枝のせん除</p> <p>(2) ハナモモ、スモモ、アンズ等からの伝染に注意する。</p> <p>(3) 薬剤散布</p> <p>3 ヤガ</p> <p>ヤガの果実への加害は、7月下旬からみられ8月に入ると急激に増加し、晩生種では収穫果の6割以上に及ぶこともある。</p> <p>(1) ネット被覆</p> <p>ネット被覆にはヤガだけでなく、他の害虫や鳥害、風害、せん孔細菌病の防除も目的とした長期被覆(5～11月)と、ヤガと鳥害の防除を目的とした短期被覆(収穫前2週間)とがある。ネットは透明で3mm目程度のものを用い短期被覆であれば樹全体へのベタ掛けでも良いが、長期被覆では新梢が直接ネットへ触れないように、ブドウ棚のような棚が必要である。なお、ネット被覆内ではハダニの発生が増えるので、適期防除が必要である。</p> <p>(2) 果実袋</p> <p>一般に有袋栽培も行われているが、風雨にさらされる期間が2ヵ月以上になることで果実袋の強度が低下し、さらに8月に入るとヤガの飛来が増え防除効果も低くなるので、収穫2週間位前に掛け替え、あるいは重ね掛けを行う。また、掛け替えに二重袋を用いればより効果は高い。</p>

(4) もも作業

月	旬	生育状況	作業名	作業の内容
12 ～ 2 月			園内整備 整枝、せん定	明暗渠排水の設置及び修理、農道、防除施設の修理、整備を行う。 せん定時期は12月上旬～2月上旬で、樹全体に日光が当たるように行う。落葉、せん定枝は園外に持ち出し、処分する。
3 月		催芽期	防風対策 摘蕾	防風樹(すぎ、ひのき、まき等)の植付適期、枝の刈り込み、人工防風施設の整備を行う。 主枝、亜主枝など伸ばしたい枝の先端強化、大玉生産のために行う。 蕾の時期ならいつでもかまわないが、蕾の先端が赤みをおびた時期が作業がしやすい。 原則として花粉のある品種を行い、無い品種は行わない。なお、樹勢の弱い樹では強く、若木や樹勢旺盛な樹では弱く行う。
4 月	上 中	開花期	晩霜対策 花粉採取 人工交配 芽かき 草刈り 新植樹追肥	人工交配には10a当たり1～2kgの花の量が必要で、花粉としては30cc程度である。 4～5分咲の時期と満開期の2回で着果予定の2～3倍程度実施する。 徒長枝となる芽を早目にかぐ。樹勢の弱い樹は誘引、捻枝により葉数を確保する。 草が繁茂すると養水分の競合が起こり生育が遅れる。 幼木は速効性窒素を少量施用する。
5 月	上 中	果実小指大 (満開2～3週間後) 枝の伸長最盛期	予備摘果 誘引 枝 仕上摘果	満開15～20日後頃実施する。最終着果量の1.5倍程度残す。目安は短果枝で2～3本に1果、中果枝で1本に2～3果、長果枝で1本4～5果残すが、樹勢の強い場合は多めに、弱い場合は少なめに残す。 主枝、亜主枝の確立を図る。 徒長枝となる枝の勢力を抑え、翌年の結果枝、葉数確保、日焼け防止に利用する。 満開40～45日後実施する。早生種は20葉に1果、中生種は25葉に1果、晩生種は30葉に1果を目安に、結果枝の葉数の多い部分の果実を残す。

5月	下	早生種硬核期	袋掛け 草刈り 梅雨対策	白桃系は生理的落果が多いので5月末～6月上旬に行う。 集排水溝の整備を行う。
6月	上	中晩生種硬核期	支柱立て 追肥 誘引 夏季せん定	枝の垂れ下がり、折損を防ぎ着色を均一にするため行う。 カリを中心に行うが過剰には注意する。 主枝、亜主枝の確立を図る。 樹冠内の日当たりを良くし、果実の着色、下枝の充実を図る。強すぎないようにする。また樹勢が弱い場合は、誘引し、翌年の結果枝や日よけとして使う。
	下	早生種成熟期	反射マルチ被覆 収穫	収穫前5～7日位に行い、着色の難易により前後させる。 果実の地色のぬけ方をみて、適期を判断し午前中に収穫する。
7月	上 中	中生種成熟期	草刈り・敷草 収穫	梅雨末期・梅雨明け直後に行い、水分の競合、過乾燥を防止する。 果実の地色のぬけ方をみて、適期を判断し午前中に収穫する。
8月	上 中	晩生種成熟期	収穫	果実の地色のぬけ方をみて、適期を判断し午前中に収穫する。
	下	花芽分化期	台風対策 礼肥	枝の誘引結束を行うとともに土の侵食防止、排水対策を行う。 速効性肥料を主体とする。
9月	上 中		間伐・縮伐 秋季せん定 草刈り	下枝への日当たりや枝の交わりを見て判断し、亜主枝単位で行う。 不要な徒長枝を抜くことで日当たりを良くし、樹勢を落ち着かせる。
10月	中 下		元肥	有機質肥料を使用する場合は、分解に日数を要するため、地温が高い10月上旬までに施用する
11月	上 中	落葉期 休眠期	苗木の植つけ 深耕	植え穴の土壌改良を充分に行い、深植えとならないようにする。 断根を少なくするため、たこつぼ深耕が良いが、排水不良園では、暗渠との併用か樹間の断根の少ない位置での溝状深耕を行う。有機物は完熟堆肥を施用し、燐酸、石灰もこの際深層に施用する。

(5) 施肥基準

ア もも(成木)10a 当たり施用量

施肥時期	時期別割合(%)			成分量 (kg)			施肥上の注意
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
元肥(10中下月)	77	100	86	8.4	8.0	6.0	(1)成木園10a当たり収量2,500kgを基準とする。 (2)施肥量は肥沃地で10%減、やせ地では20%増とする。
礼肥(8月下~9月上旬)	23	—	14	2.4	—	1.0	
計	100	100	100	10.8	8.0	7.0	

イ もも(幼木)10a 当たり樹齢別施用成分量(kg)

樹齢	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	施肥上の注意
1年生	3	2	2	(1)樹齢1、3および5年生は10a当たり30本程度とする。
3年生	5	3	4	
5年生	8	6	7	

(6) もも品種特性表(1)

品種・系統名	原産地及び来歴	果実の特性	樹の特性	栽培上の注意事項	収穫期
日川白鳳	山梨県山梨市 田草川利幸氏 1973年に白鳳の芽接ぎ苗の 中から発見した枝変わり 昭和56年品種登録	果実重は200～250gで、果形は円形であるが、樹勢が強く肥大が劣るとやや腰高になる。果皮の着色は良く、果肉は白色、溶質で日持ちは良好である。	樹勢はやや強く、直立性であるが成木に従い開帳する。複芽が多く、花芽の着生も多い。	結実は良好で、生理落果は少ないが、結実過多では果実肥大が劣る。着色が良く、果肉の成熟に先行するタイプなので、早取りに注意する。	6月下旬
さくひめ	茨城県つくば市 農研機構育成 296-16×332-16 平成30年3月品種登録	果重250g程度で、果肉色は白色。糖度は12～13度前後で、酸味は少なく、食味良好。	樹勢は強く、花芽は多い。花粉を有するため受粉樹は不要。低温要求時間が短いため、開花盛期は「日川白鳳」より7日程度早い。	開花期が早いため、開花期に晩霜害を受けるリスクが他の品種よりも高い可能性がある。	6月下旬
あかつき	茨城県つくば市 農林水産省果樹試験場(現(独)農業・生物系特定産業技術研究機構 果樹研究所)育成 白桃×白鳳 昭和54年6月 名称登録	果重150～200gで果形は円形で玉揃いは良い。果皮の地色は白で、陽光面は鮮紅色に着色する。果肉は白で紅を生じる。肉質は緻密で多汁、繊維は少ない。甘味は多く、酸味は適度で品質は中の上、日持ち性は良い。	樹姿は中間で樹勢はやや強い。結果枝の長さは中くらいで、太さは細く、発生は密である。花芽の着生は良く、複芽の形成も良い。花粉は多い。	樹勢やや強く、枝の発生多く、複芽の形成も良いので作りやすい。若木のうちは小果になる傾向があるので摘果に注意する。また、あまり大果になると肉質、日持ち性が低下する。無袋栽培が可能であるが、吸蛾類の発生の多い所では防除対策が必要である。	7月中旬
白鳳	神奈川県平塚市 神奈川県立農事試験場(現農業総合研究所)育成 白桃×橘早生(大正14年交配) 昭和8年 命名公表	果重200g前後で果形は円形で玉揃いは良い。果皮の地色は白で着色は中くらいである。果肉は乳白で、紅色素は入らない。肉質は緻密で多汁、繊維は少ない。甘味は多く、酸味は少なく食味は良い。日持ち性は中である。	樹姿は、中間～やや開張で、樹勢は中程度。結果枝の長さ、太さ、発生ともに中。花芽・葉芽の着生はともに良く、花粉は多く結実性は高い。	肥沃地では、樹勢を落ちつかせない、樹冠上部と下部の品質差が大きく、肉質、糖度が低下し、日持ち性も悪くなる。施肥・せん定で樹勢を調節し、結実性が高いので、早期の摘蕾摘果による着果調節が必要である。	7月下旬
よしひめ	茨城県つくば市 農林水産省果樹試験場(現(独)農業・生物系特定産業技術研究機構 果樹研究所)育成 21-18(中津白桃×布目早生)×あかつき 平成5年7月 品種登録	果重250g余りで果形は円形で玉揃いは良い。果皮の地色・果肉色はともに白で着色がよい。肉質はやや密で多汁である。糖度は12～13度で中生としては高く、品質は中の上である。日持ち性はよい。	樹勢はやや強く、樹姿はやや開張性である。枝の長さはやや長く、太さは中くらいで、発生は多い。花芽の着生は多く、花粉も多い。	花芽の着生が良く、生理落果が少ないため、結実良好で豊産性である。また、着色もよいので無袋栽培は可能である。	7月下旬～8月上旬

(6) もも品種特性表(2)

品種・系統名	原産地及び来歴	果実の特性	樹の特性	栽培上の注意事項	収穫期
まさひめ	茨城県つくば市 農林水産省果樹試験場(現(独)農業・生物系特定産業技術研究機構 果樹研究所)育成 21-18(中津白桃×布目早生)×あかつき 平成5年7月 品種登録	果重250g程度で、果形は円形で玉揃いは良い。果皮の地色・果皮色ともに白で着色はやや良い。 肉質は密で多汁である。糖度は13~14度と高く、品質は上である。	樹勢は中で、樹姿はやや開張性である。枝の長さはやや長く、太さは中くらいで発生は多い。花芽の着生は多く、花粉も多い。	糖度が高く、着色も良好であるので無袋栽培が可能であるが、吸蛾類の発生が早いと被害を受けやすいので注意が必要である。	7月下旬~8月上旬
清水白桃	岡山県岡山市芳賀 西岡伸一氏 白桃と岡山3号の混植園での偶発発生	250g前後で果形は円形で玉揃いは中である。果皮は着色しにくい。肉質は緻密で軟らかく、多汁である。甘味は多く食味はよい。日持ち性は悪い。	樹姿は中間で樹勢は強い、結果枝の長さ、太さ、密度はともに中である。花芽の着生は良く、複芽の形成も良く、花粉も多い。	無袋にすると裂果が発生するので袋掛けが必要である。吸蛾類の被害が発生しやすいので防除対策が必要である。また、輸送性が低いので収穫期に注意する。	8月上旬
なつおとめ	茨城県つくば市 独立行政法人農業技術研究機構 あかつき×よしひめ 平成14年品種登録	果実重は230~300gで、果形は扁円形である。果皮の着色は良く、果肉は白色、溶質で果汁は多、酸味が少なく、香気は多である。	樹姿はやや直立性で、樹勢は中。新梢の発生は多く、花芽の着生も多い。	花芽が多く、結実も極めて良好なので大玉果生産のため摘蕾摘花等早めの結実管理が必要である。収穫が遅れた場合には果肉内にみつ症状が発生し、褐変することがあるので適期収穫を心がける。	8月上旬
川中島白桃	長野県長野市川中島町 池田正元氏 上海水蜜桃×白桃 昭和52年 命称登録	果実の大きさは300g前後、果形は円形で玉揃いはよい。果皮の地色は白で陽光面は紅色に着色するが、微細なヒビを生ずることがある。 肉質はやや粗であるが多汁である。甘味は多く、酸は少なく食味はよい。日持ち性はよい。	樹勢は強く、花芽の着生も多い。 樹勢は若木のうちはやや直立性であるが成木になると開張してくる。 生理的落果は少ない。 花粉は少ない。	無袋でも裂果しないが晩生であるので吸蛾類の被害を受けるので吸蛾対策が必要である。	8月上旬